

風間浦中学校との交流25年目 生徒会による訪問と交流会が現地の新聞で紹介されました

東奥日報 2018年1月21日付 朝刊に掲載



新島襄 寄港記念碑(海峽いさりび公園内)

同志社創立者・新島襄が風間浦村下風呂に寄港した縁で、交流を続けている同志社中学校の生徒8人が18〜21日の日程で同村を訪れている。19日は風間浦中学校で同中生と交流した。村を訪問しているのは、

風間浦

同志社 風間浦 両中生、交流深める

新島襄の縁ずっと

同志社中の生徒会のメンバー。19日は、風間浦中学校で、下北半島で昔から親しまれている菓子「べこもち」作りを体験。生徒たちは昼



昼食会で交流を深めた同志社中生と風間浦中生

食会で「べこもちを味わい、会話を弾ませた。風間浦中生徒会長の駒嶺 鍊さん(2年)は「10月に2年生が同志社を訪問した際、歓迎してもらったので、その恩返しをする気持ちで迎えた。互いに積極的にコミュニケーションが取れた」と話した。同志社中生徒会長の浅岡麻彩弥さん(3年)は「べこもちが初めてだったけど、粘土をこねるみたいで意外と簡単にでき、面白かった。緊張して来たが、みんな気さくで優しくて楽しい時間を過ごせた」と語った。(加藤彩美)

～同志社中学校と風間浦中学校の交流～

本州最北端の青森県風間浦村と同志社との交流のきっかけは、150年以上前の1864年までさかのぼります。当時鎖国していた日本において、欧米に学ぶ必要性を感じた校祖新島は国禁を犯して函館からアメリカに渡航しました。その函館に向かう航海中に、激しい逆風と潮流に妨げられ青森県「風間浦村」の下風呂港に寄港し、数日間滞在了ました。校祖新島は父民治に送った手紙で、下風呂温泉に入り「重き荷物を卸し候」とその時の思い出を綴っています。

同志社校友会青森支部の方々と風間浦村の方々の熱い思いによって、1992年、下風呂温泉郷の観光拠点となっている「海峽いさりび公園」に、「新島襄寄港記念碑」が建立されたことを機に、風間浦村と同志社の交流事業がスタートしました。毎年行われる碑前祭、村内小中学校への同志社大学留学生の派遣、そして同志社中学校と風間浦中学校との交流です。これまで約25年間、風間浦中学校2年生の皆さんは、同志社体験プログラムで毎年秋の学園祭時に、本校と同志社大学を訪問。本校からも以前は5年に一度、生徒会代表が風間浦村・風間浦中学校を訪問していましたが、交流20周年を機に、毎年訪問し交流をますます深めています。